

BPT026-P01

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 10:30-13:00

ユーラシア西部における中新世後期の”ピケルミ哺乳動物群”の発達 Development of ”Pikermian mammalian fauna” in the late Miocene of western area of Eurasia

Maschenko Evgeny¹, 渡部 真人^{2*}, Fortelius Mikael³
Evgeny Maschenko¹, Mahito Watabe^{2*}, Mikael Fortelius³

¹ ロシア連邦科学アカデミー古生物学研究所, ² 林原生物化学研究所古生物学研究センター, ³ ヘルシンキ大学
¹PIN, Academy of Sciences of Russia, ²Center of Paleobiological Research, ³University of Helsinki

後期中新世の陸上哺乳類動物群は、乾燥環境に適応した形態を有する動物が卓越することで特徴付けられる。このような組成は、ユーラシア西部地域（中央ヨーロッパ、西南ヨーロッパ、ギリシアーイラン地域）で典型的に認められてきた。今回、著者らは従来その詳細が不明であった黒海東岸（東ヨーロッパ）、黒海北岸、トランスコーカシア（グルジアなど）、中央アジア（カザフスタン、キルギスタン、モンゴル）に分布するそれら類似動物群を調査し、その類似性（共通性）を動物群中のウマ化石（ヒッパリオン類）を明らかにした。これによると、東ヨーロッパ、黒海北岸、トランスコーカシア、中央アジアにおいては、ギリシアーイラン地域からの分類群と系統的に近縁なヒッパリオン類が分布している。ヨーロッパ東南部から中央アジアにかけて、近縁なヒッパリオン類が分布し、また動物相組成も類似している。ユーラシアの西部から中央部にかけて広く分布するヒッパリオン類は、それら地域の化石産地の陸成層の対比を可能にし、また、その古環境の類似性を示唆する。さらに、中央アジア東部産地からのヒッパリオン類は、中国北部地域からの分類群と類似するものが見られる。これは、ユーラシア全域において、乾燥環境が発達した後期中新世において、その東西の地域において動物群の強い類似性と、弱い地域性が存在したことを示す。これは各地域における特殊性と生物学地理的な拡散現象を反映しているであろう。

キーワード: 中新世, 哺乳類, ウマ, 気候変動, ヒッパリオン

Keywords: Miocene, Mammal, Equidae, Climate change, Hipparion